



越谷市長 福田 晃氏

市長のメッセージ

越谷市には5本の一級河川が流れ、古くから「水郷こしがや」として多くの方に親しまれてきました。また、江戸時代には日光街道第三の宿場町として賑わいを見せ、今も市内にその名残をとどめています。近年では日本最大級のショッピングモールと隣接する大相模調節池周辺の地域が、本市の新たな魅力として、多くの方が訪れるスポットとなっています。新旧様々な文化が融合し、都市部と豊かな自然の両方を持ち合わせているところが、本市の魅力です。

今年は、本市の夏の風物詩である越谷花火大会や南越谷阿波踊りの流し踊り(表紙写真)も復活し、地域の更なる賑わいと活気が生まれることを大いに期待しているところです。近くまでいらした際には是非お立ち寄りください。

はじめに

越谷市は東京都心から25km圏内、埼玉県南東部に位置し、北は春日部市、東は松伏町・吉川市、南は草加市、西は川口市・さいたま市に接している。

「水郷こしがや」と呼ばれるように元荒川、葛西用水など多くの河川・用水が市内を流れており、地形は全体的に平坦である。

市内には、南北に東武スカイツリーライン、東西にJR武蔵野線が通り、あわせて8つの駅が設置されており、都内へのアクセスは良好。道路では国道4号線が市内のほぼ中央を縦断し、さいたま市方面に伸びる国道463号も国道4号と市内でつながっているほか、市東部の東埼玉道路は、東京外環自動車道と並行する国道298号に接続する。首都高速道路、東京外環自動車道、東北自動車道のICも近い。

江戸時代から日光街道第三の宿場町として商業が発達し、賑わいを見せていた。1954年に2町、8村が合併し越谷町となり、1958年に市制を施行した。2008年には広大な調節池を中心に良好な住宅や国内最大級のショッピングモールを集約した越谷レイクタウンが誕生した。

各鉄道駅の周りは住宅地や商業地となる一方で、周辺部はのどかな田園地帯も広がっている。交通利便性の高さや、生活環境の良さなどから、人口は増加を続け、現在約34万人と県内63市町村中第5位となっており、賑わいと活気のあるまちとして発展を続けている。

徳川家康と越谷

NHKの大河ドラマで徳川家康が主人公となり、全国各地で家康ゆかりの地としてイベント等が行われているが、越谷市も家康とのゆかりが深い。1590年家康は江戸城に入り、関東の支配者となるが、周辺諸大名の動静を探知するとともに、関東の地形を熟知するため、鷹狩と称して各地を巡察した。越谷にも度々訪れ、現在、市のほぼ中央である御殿町に宿泊所として越ヶ谷御殿が設営され、家康や2代将軍秀忠はしばしばここに宿泊した。この越ヶ谷御殿は1657年の江戸の大火による江戸城焼失後、将軍の居城として江戸城二の丸に移された。越谷市の林泉寺には、家康が鷹狩の際に馬をつないだといわれる「駒止めのマキ」と称されるマキの木がある。また、市内最古の寺院と伝えられる大聖寺は、越ヶ谷御殿が設営される前は家康の宿泊所として利用され、家康から拝領したといわれる寝衣が保存されている。



鷹狩の際、家康が宿泊した「越ヶ谷御殿跡」

越谷市概要

人口(2023年6月1日現在)	343,740人
世帯数(同上)	161,399世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	46.5歳
面積	60.24km ²
製造業事業所数(経済センサス)	368所
製造品出荷額等(同上)	2,250.4億円
卸・小売業事業所数(同上)	2,180店
商品販売額(同上)	7,789.1億円
公共下水道普及率	84.2%
舗装率	89.6%

資料:「令和4年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武スカイツリーライン せんげん台駅、大袋駅、北越谷駅
越谷駅、新越谷駅、蒲生駅
- JR武蔵野線 南越谷駅 越谷レイクタウン駅
- 東北自動車道 浦和ICから市役所まで約8km
東京外環自動車道 草加ICから市役所まで約7km

家康は元荒川の治水を進め、日光街道を通して越ヶ谷宿を設置し、越谷の礎を築いた。市では、のぼりやマップを作成するなど、「徳川家康ゆかりの地」をPRしている。

🌟 越谷いちごタウン

越谷いちごタウンは、2015年にオープンした関東最大級のいちご狩り観光農園。約1万9,000m²の広大な農園に8棟のビニールハウスが建てられている。紅ほっぺ、章姫、かおり野、埼玉県オリジナル品種のあまりんなど多品種が栽培されており、いちごの食べ比べが楽しめる。園内は、楽な姿勢でいちご狩りを楽しめる上下2段の高設栽培を採用している。また、通路幅を広く確保しており、ベビーカーや車いすでも利用できるような環境を整えている。持ち帰り用のいちごやジャムなども販売しており、市内外からの多くの人で賑わっている。市内には、当園のほか8カ所のいちご観光農園がある。また、いちごのほか、消費地に近い立地を生かし、ねぎやくわい、小松菜など消費者のニーズに合った高品質な野菜が栽培されている。

🌟 越谷レイクタウン 大相模調節池の水辺活用

越谷レイクタウンは、治水対策を目的とした調節池と新市街地を一体的に整備する「レイクタウン整備事業」として1988年に事業採択され、2008年のまちびらき以来、多くの住宅や大型の商業施設が建

てられてきた。中心にある大相模調節池は大量の水を貯水できる調節池である一方、地域住民の憩いの場や水辺を活かしたイベントを行う場所として親しまれている。今後、水辺の整備やイベントの充実に取り組み、交流人口の拡大や経済活性化を目指している。

調節池上に張り出す形での水上デッキ整備、中央通り沿いの芝生部分(一部)の整備、イベント等の実施などが想定されており、埼玉県、民間業者、越谷市が連携・協力して実施していく。これに合わせて、商業施設であるイオンレイクタウンでは、2023年から2025年にかけて、新店舗の開設や、アウトレットの拡張などリニューアルプロジェクトを実施する。当プロジェクトは、地域全体の活性化を目的に、「暮らし・社会・環境」に働きかけ、持続可能なまちづくり、次世代型「水郷こしがや」の実現をめざしている。

(吉嶺暢嗣)



広大な水辺空間「越谷レイクタウン」